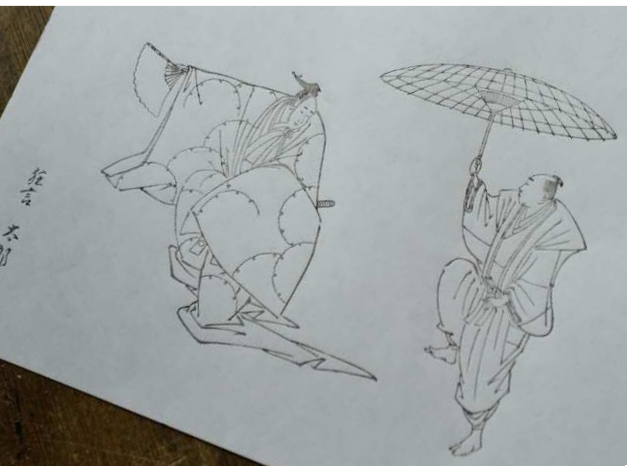


木版画を見立てる審美眼

〈もの〉を使う人と
〈もの〉をつくる人と
〈もの〉づくりをバックアップする人の三者がそろわないと、
〈もの〉に命が与えられ、生き続けることはできない、
とデービッドブルさん。
その原理はどんなものにも共通し、
伝統工芸といわれる木版画や手漉き和紙の世界も同じ。
〈もの〉の魅力を知る人は、
〈もの〉づくりを支える人を増やして、
愛され続け、使われ続ける〈クラシック〉にするための、
努力をしなくてはなりません。



デービッドブル

David Bull

せせらぎスタジオ主宰 木版画家
1951年イギリス生まれ。国籍はカナダ。1986年拠点を日本に移し、東京・羽村で活動を始動。1989年から勝川春章の百人一首復刻を版画で製作開始し、1998年完成。2001年から東京・青梅に〈せせらぎスタジオ〉を構える。

木版画の美しさを知る

版画という技法は世界中にありますが、紙の表面に絵の具を載せているだけ。ところが日本の木版画は、和紙の特質のお蔭で繊維の中にまで絵の具が染み込んでいきます。そのため、色に深みが与えられ、立体的な陰影が表現できます。日本で木版画が過去の伝統工芸になってしまったのは、見る人も売る人も、このことを忘れてしまったからです。額に入れてガラスやアクリルで封をして壁に掛けたのでは、日本の木版画の魅力は理解できません。

ピラミッドを支える裾野

私はカナダに住んでいるときに、小さなギャラリーで行なわれた展覧会で、初めて日本の木版画を見ました。ギャラリーのオーナーが木版画の魅力を引き出す〈見方〉を知っている人で、彼のお蔭で、私は木版画の魅力に取り憑かれたのです。私が惹かれたのは、作品自体ではありませんでした。木版画の技法そのものに魅せられたので、すぐに自分でもつくってみようと思えました。手先が器用で、それまでたいがいのはつくってきたので、木版画も簡単にできるだろうと考えたからです。

そのうちに「勤めを辞めて版画家の路に進むべきではないか」という考えが頭をもたげてきました。当時の家庭事情もあって、1986年（昭和61）、とうとう日本にやってくることになったのです。日本の物価があまりにも高いことに驚き、当初住もうとしていた浅草界隈からどんどん離れ、結局、東京都下の羽村に腰を落ち着け、英会話を教えながら生計を立てました。青梅に〈せせらぎスタジオ〉という工房を構えることができた



のは、2001年（平成13）になつてからのことです。

日本にはたくさんの和紙産地がありますが、木版画に適した紙は越前の今立でつくられる越前奉書しかありません。越前奉書は、喜多川歌麿の時代から「こういう紙をつくってくれ」という要望の末に完成された紙なのです。木版画は、紙にギューギューギューギューとバレンを押しつけて、ときに

は何十回も摺りを繰り返します。それでも越前奉書は絶対に破けない。その紙を漉いてくれるのが、岩野市兵衛さんです。

市兵衛さんには、幸いなことに順市さんという後継者がいますが、全国には残念ながら絶えてしまった和紙産地もたくさんあります。つくる人がどんどん減ると、道具や材料をつくる人も絶えてしまう恐れがあって、実際に簀をつくる

人がいなくなったために漉けなくなったサイズの紙もあります。木版画も和紙と同じ状況で、まずは彫刻刀がなくなってきた、昨年から刃物をつくるプロジェクトを始めました。刷毛も、もう手に入りません。

版木には、よく乾燥させて狂いを直したヤマザクラの木を使います。絵の輪郭や細かな髪の毛を彫る主版には堅くて高密度の板が必

要ですし、単色を均一に色付けしたい場合は柔らかく木目の目立たない木が必要です。そういう繊細な仕事を、東京では島野慎太郎さんが続けていましたが、最初に版木を買ったときと比べて良い材料は徐々になくなっていった。彼は、日本で最後の版木職人。私が百人一首の100枚目の版木を彫っているときに亡くなられ、今はもう版木をつくる人は誰もいません。仕方なく、合板の芯材にヤマザクラの薄い板を貼付けた版木を使っています。

「もの」を使う人と「もの」をつくる人と「もの」づくりをバックアップする人の三者がそろわないと、「もの」には命が宿りません。江戸時代には彫師も摺師もたくさんいました。もちろん下手な人もいっぱいいたでしょうが、裾野が広がったから高いところに到達する木版画も生まれたのです。高いピラミッドをつくりたいと思ったら、広い裾野が必要なのと同じことです。

魅力を伝える仕掛け

頒布会形式で木版画をシリーズ化したときに、空摺り（凸版に絵の具を塗らず、摺り圧だけで紙面に凹凸模様をつくり出す技法）とか、ぼかしとか、擦れ彫りとかいった、木版画のさ

まざままテクニクを盛り込みました。お客さんからすると脈絡のないシリーズだ、としか思えないかもしれませんが、自分にとってハレーニングの意味もあつたんです。

100年の間に、今の日本人が木版画の楽しみ方を忘れてしまったことは、今さら愚痴っても仕方がない。だから、私は楽しみ方を思い出してもらおうとしています。問題解決の糸口は、木版画を知らない人ではなくて、木版画をよく知っている人が握っているんですね。

斜光によって木版画は深い色調を見せるので、ガラスやアクリルで封印して壁に掛けたのでは、魅力がちっとも発揮できません。それで、桐で飾り箱をつくり、見せ方を工夫しました。中に収納することもできる箱です。

芸術品ではなく

しかし、私の木版画はアートではありませんから、摺り番号も入れています。番号というのはエディションナンバー、つまり「限定枚数」のことです。

版画は絵画と違って、版をつくったら一度に何枚も摺られるものですが、本や雑誌のように売れば売れるだけ印刷するわけではな



上：小川に開けた窓からの自然光を使って仕事を
する。下右：彫り上がった版木は、デービッドさんの宝
物だ。下左：中国製、日本製を経て、とうとう《版画
玉手箱》の桐箱も自作することに。どんなことも工夫
と仕組みづくりで乗り切ってきたデービッドさん。



した。

しかし、摺りをほかの人にお願
いする《木版館》の事業を立ち上
げて、リーズナブルな価格を実現。
伝統木版画の美しさを一人でも多
くの人に知ってもらいたいという
思いから、復刻版と現代作家のオ
リジナル版をつくっています。

(木版館HPアドレス)

<http://mokuhankan.jp/index.html>

現代に意味がある ものとして

こんなに素晴らしい、美しいも
のなのに、なぜ廃れようとしてい
るのでしょうか？ 見ると欲しく
なるのに、どうして和紙を、木版
画を、つくる人が少なくなったの
でしょうか？

もちろん、明治になって印刷様
式が変わったために、昔のように
は木版画の出番はありません。問

題はそこにはなくて、当時、木版
画に携わっていた人たちが、観光
客が買うような歌川広重や葛飾北
斎といった過去の遺産だけに頼っ
たことにあるのではないでしょう
か。そのために、時代がそこで止
まってしまったのです。

確かに素晴らしい木版画ですが、
欲しいと思う現代人がどれぐらい
いるのでしょうか。トヨタやニコン
が元気なのは、人が欲しいと思う

ものをつくっているから。私も、
今生きている人たちが欲しいと思
うような木版画をつくらうとして
います。

今、生きている人が自分で買え
る《もの》、欲しくなって買いた
くなる《もの》でなければ意味が
ありません。伝統工芸だから残さ
なくては、と補助金を注ぎ込んで
無理矢理残したんでは意味がない
んです。本当に木版画を守りたい
と思ったら、自分で買わなくては
税金で守るのは間違いです。

私は木版画が好きだからつくっ
ているだけ。日本の伝統工芸を、
カナダ人が守っているわけではあ
りません。私のお客さんは、私の
つくるものが好きだから買う。答
えは一つしかない。良いものをつ
くって、社会の人に必要とされる
こと。残るためには、この方法し
かありません。

音楽の世界がお手本ですよ。モ
ーツァルトの曲を聴きに行くのは、
クラシック音楽を守るためです
か？ 演奏家はモーツァルトの伝
統的音楽を守るために弾いている
のでしょうか？ 違いますね。み
んなモーツァルトの曲が好きだか
らです。モーツァルトの曲には、
まだ意味がある。和紙も木版画も
同じはずだと思います。

取材：2012年5月11日

